

Part 21, Vols 79–82: Art History, 5th Series

定価(本体94,000円+税)・ISBN 978-4-86340-312-3・全4巻・菊判

アメリカの彫刻:彫像とモニュメント

南北戦争後から第一次世界大戦までのいわゆる金びか時代に花開いたアメリカの彫刻物についての歴史ないし評論の中で、20世紀初頭に書かれた基本的な書籍を集めて復刻します。求心力が必要だった時代に彫刻物が持つ意味は大きく、それらが当時どのように考えられていたのかを踏まえるための基礎資料です。



Contents

Volume 79: Lorado Taft *The History of American Sculpture* (1903; 3rd rev. ed., 1930)

ISBN 978-4-86340-313-0・636 pp., 15 pl., ill.・27,000円+税

Lorado Taft は当時よく知られた彫刻家で、1886年から1907年までアート・インスティテュート・オブ・シカゴで指導に当たった。シカゴ大学、イリノイ大学の芸術学講座でも教壇に立った。著作も多く、現在よく知られているのは本書 *History of American Sculpture* で、19世紀のアメリカ彫刻の全容を見識豊かに書き記しており、その情報量の多さと合わせて、このジャンルの歴史研究者が今でも利用する定番書である。初版は1903年、その後の動向を踏まえた追加の章を加えた新版が1924年に、そして Adeline Adams による更なる増補が施された版が1930年に刊行された。

Early Efforts • Greenough and His Times • Hiram Powers and the “Greek Slave” • Crawford and Sculpture at the Capitol • Some Minor Sculptors of the Early Days • The Native Element in Early American Sculpture • Palmer and Ball • Story and Randolph Rogers • Rinehart and John Rogers • Other Sculptors Born Before 1830 • Harrier Hosmer and the Early Women Sculptors • John Quincy Adams Ward • A Group of Builders of Monuments • New Influences • Augustus Saint-Gaudens • Daniel C. French • Frederick MacMonnies • George Grey Barnard • Bartlett and Adams • Niehaus and Boyle • Other New York Sculptors • The Younger Generation in New York • Decorative Sculptors and Men of Foreign Birth • Sculptors of Animals • Present-Day Sculptors of Boston and Philadelphia • Sculptors of the South and West • Conclusion • Supplementary Chapter (by Taft to the 1924 ed.) • Supplementary Chapter: Certainties and Hopes (by Adeline Adams to the 1930 ed.) • Bibliography • Index

Volume 80: Charles H. Caffin *American Masters of Sculpture* (1903)

ISBN 978-4-86340-314-7・252 pp., 32 pl.・20,000円+税

著者 Charles Caffin はイギリスに生まれ育ち、1892年にアメリカに渡り、前世紀転換期の影響力のある美術評論家となる。新聞や雑誌—— *New York Evening Post*、*Harper's Weekly*、*Studio* アメリカ版、さらには写真家 Alfred Stieglitz が主宰した *Camera Notes* や *Camera Work* —— に幅広く寄稿し、美術史のほか、アメリカの絵画、彫刻、写真についても本を出した。Caffin はやがて初期モダニズムに好意的な先進的評論家として認識されるようになる。本書は同時代の主要なアメリカ人彫刻家についての評論で、「アメリカという場におけるアメリカ的テーマに沿った作品」を論じてアメリカ芸術独自の主体性を定めようとしたもの。

Augustus Saint-Gaudens • George Grey Barnard • John Quincy Adams Ward • Daniel Chester French • Frederick MacMonnies • Paul Wayland Bartlett • Herbert Adams • Charles Henry Niehaus • Olin Levi Warner • Solon Hannibal Borglum • Victor David Brenner • The Decorative Motive • The Ideal Motive • Index

Volume 81: Lorado Taft *Modern Tendencies in Sculpture* (1921) & Adeline Adams *The Spirit of American Sculpture* (1923; 2nd rev. ed., 1929)

ISBN 978-4-86340-315-4・396 pp., 92 pl., ill.・24,000円+税

1920年代のやや小振りな著作2点を合本。Taft の *Modern Tendencies in Sculpture* は1921年刊行、1917年のシカゴ大学での Scammon Lectures の講義録。国際的な視座をもったものだが、マティス、ブランクーシ、アーキペンコ、ゴッディエ＝ブルゼスカといったモダニストを認めない内容。

もう一方の *Spirit of American Sculpture* は、アメリカの彫刻家 Herbert Adams の妻で Vol. 79 の増補部分の執筆者でもある、芸術評論家 Adeline Adams の代表作。初版は1923年、ここでは1929年の改訂増補版を復刻。アメリカの国民性と結びついたテーマを持った作品が多く作られた時期のアメリカ彫刻を積極的に支持している。Taft と Adams は芸術の現代的な発展を結局受け入れることがなかったが、二人とも Janet Scudder や Bessie Potter Vonnoh をはじめとする初期の女性彫刻家を支持した点で称賛されている。

[*Modern Tendencies in Sculpture*] Auguste Rodin • Recent French Sculpture • Recent German Sculpture • Recent Sculpture in Various Lands • Augustus Saint-Gaudens • Some Recent Tendencies in American Sculpture • Index

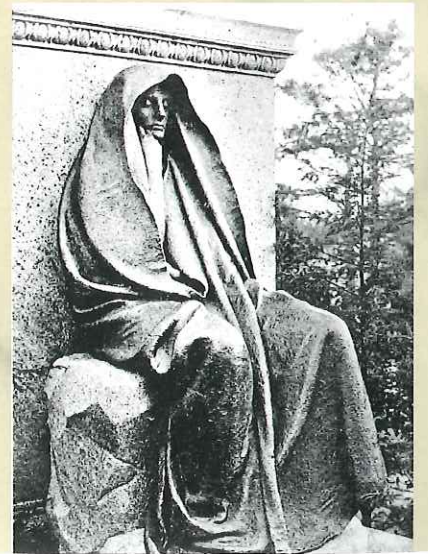
[*The Spirit of American Sculpture*] Mrs Patience Wright Speaks the Prologue • Our Blithe Beginning Days • Of Three Leaders, and of Moral Earnestness in Art: John Quincy Adams Ward, Augustus Saint-Gaudens, Daniel Chester French • Of Expositions and Collaborations • The Statue and the Bust and the Ideal Figure • Our Equestrian Statues • The Art of Relief, High and Low • Of Garden Sculpture and Ornament • Of Small Bronzes and Great Crafts • The National Sculpture Society • Influences, Going and Coming • Supplementary Chapter (to the 1929 ed.): After Six Years • Index

Volume 82: J. Walker McSpadden *Famous Sculptors of America* (1924)

ISBN 978-4-86340-316-1・394 pp., 32 pl., ill.・23,000円+税

著者 Joseph McSpadden は、非常に多くのジャンルにまたがる著述家で、同時代の画家についての著作もある。「アメリカ彫刻の新派」を通覧する本書は、個人的な面識と制作現場でのインタビューに基づくもの。最新のアメリカ彫刻の業績を称賛、「外国の様式の盲信」からの脱却を好意的に示している。

John Quincy Adams Ward • Augustus Saint-Gaudens • Frederick MacMonnies • Daniel Chester French • Paul Wayland Bartlett • George Grey Barnard • Gutzon Borglum • John Massey Rhind • James Earle Fraser • Hermon Atkins MacNeil • Women Sculptors of Note: Harriet Hosmer, Anna Vaughn Hyatt, Janet Scudder, Bessie Potter Vonnoh • Bibliography



不都合な歴史、さえも

巽 孝之 ● 慶應義塾大学教授

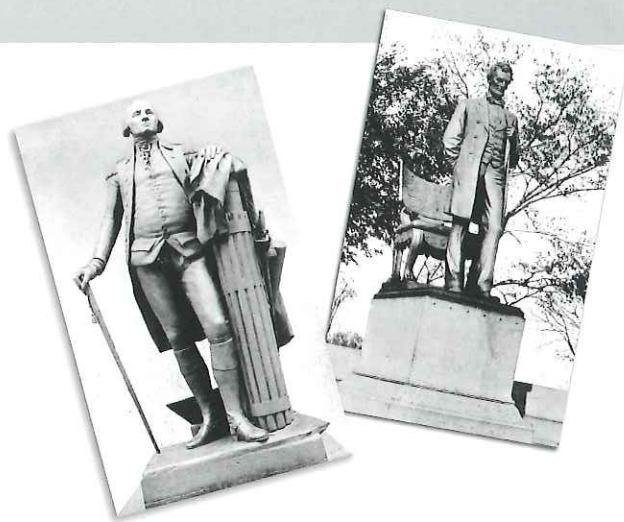
歴史を動かした決定的事件は、それ自体が文学作品に匹敵する意義を持つ。

たとえば南北戦争 150 周年に当たる 2011 年から 2015 年にかけての五年間というもの、同戦争に伴い黒人奴隷解放を成し遂げたエイブラハム・リンカーン第 16 代大統領の偉業を再確認する意味合いで、ロバート・レッドフォード監督の『声をかくす人』やスティーブン・スピルバーグ監督の『リンカーン』、そしてティム・バートン製作総指揮の『リンカーン——秘密の書』など多くのリンカーン映画が相次いだ。そうした映像群で披露される多様なリンカーン表象がどのように成立したのかを知るには、本シリーズの第 81 巻、ロラード・タフトによる 1921 年の名著『彫刻の現代的趨勢』による比較彫刻研究が啓発的であろう。今日でも、独立戦争から第二次世界大戦まで、アメリカ史上不可欠な戦争は、それぞれ毎年のようにどこかで歴史考証をじっくり加えた再演イベントが行われており、その中でも南北戦争の分岐点たる一八六三年のゲティスバーグの戦いを当時の南北両軍の軍服を再現して行う再演が花形になっているが、そうしたイベントにおいても、歴史的な彫刻や記念碑のイメージ喚起力は絶大であった。

その実例は枚挙にいとまがないが、最大のもはサウス・ダコタ州はラシュモア山に顔が刻まれた四人の偉大な大統領、すなわちジョージ・ワシントン、トマス・ジェファソン、エイブラハム・リンカーン、そしてシオドア・ローズヴェルトの肖像「ラシュモア山国立記念碑」をおいてあるまい。ワシントンとジェファソンはアメリカ独立戦争に伴う世界初の民主主義国家の成立を象徴し、リンカーンは南北戦争に伴う奴隷解放と南北再統一を、そしてローズヴェルトは米西戦争に伴うスペイン帝国主義の打破とほかならぬアメリカ合衆国自体が新たな帝国となった時代の到来を、それぞれ表象する。この彫刻の仕事を委嘱されたアイダホ州生まれの芸術家ガットソン・ボーグラムの初期の仕事については、今回のシリーズ



では第 82 巻に入るジョセフ・マクスパッデンの 1924 年の名著『アメリカの著名彫刻家たち』に詳しい。彼は各大統領を 18 メートルを超える大きさでデザインし、工事は 1927 年から 41 年まで、14 年間もかかったが、それは未曾有の好景気に湧いた 1920 年代ジャズ・エイジの末から 30 年代の大恐慌時代を乗り越えたアメリカ合衆国がハリウッド黄金時代を経て、文字通り 41 年に



日米開戦になだれ込むまでの歩みだったことを考え合わせるならば、まさにアメリカが帝国から超大国へ膨れ上がる歴史にふさわしい。けれども、ここでアメリカのナショナリズムがもたらした巨大芸術が、そもそもなぜサウス・ダコタ州に建立されたかに思いを馳せることも不可欠だ。というのは、この州こそは、かつて 1890 年 12 月 29 日にウーンデッド・ニーの虐殺が起こり、それをもって北米白人にとっての未踏の大地すなわちフロンティアがついに消滅し、北米全土の白人支配が確立した瞬間の象徴だからである。したがって、1941 年に完成した「ラシュモア山国立記念碑」は、まさに白人の勝利を高らかに謳い、インディアン虐殺という過去を隠蔽するものであった。けれどもさまざまな論争を経て 21 世紀を迎えた 2003 年のサウス・ダコタには、インディアン敗北を象徴するとともにラコタ族の偉業を讃える場所として、ウーンデッド・ニー記念博物館が建立されている。かつてケネス・E・フットは『記念碑の語るアメリカ——暴力と追悼の風景』(原著 1996 年、和田光弘他訳 2002 年、名古屋大学出版会)において、アメリカ史上重大な歴史的瞬間は必ずしも輝かしいものばかりではなく恥辱に満ちたものも多いため、記念碑建立についても聖別、選別、復旧、抹消というカテゴリーに分ける必要を説いた。それは、白人にとって都合のいい歴史もあれば不都合な歴史もあったこと、にもかかわらず、今日ではさまざまな多文化的言説を吸収し咀嚼されることにより、それら双方が新しい歴史へと組み替えられる可能性を示す。

こうした歩みは我が国とも無縁ではない。かつて 1995 年 5 月の開催をめざして、米国ワシントンDCはスミソニアン博物館で開催予定だった原爆展の企画内容が、多元文化時代ならではの政治的正義を念頭に置くアメリカ軍人団体や議会、マスコミの強力な反対により中止されている。加えてつい最近、2018 年には、米国西海岸サンフランシスコが従軍慰安婦像の市内建立を認めたため、大阪市がサンフランシスコ市との姉妹関係を解消するという動きも見られる。彫刻と記念碑がいかに文学的かつ政治的意義を帯びているか、そしてそれはいかに環太平洋の問題とも不可分であるかを考えるためのヒントが秘められている点でも、本シリーズの名著復刻は見逃せない。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティナー・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】